

特別展

樋口一葉の

奇跡の十四か月

令和6年10月5日(土)～12月1日(日)

大つごもり

(上)

葉

(二)



一葉 夢 実

井戸は車にて網のながま十二尋、勝手は北むきにて師走の空のから風ひゆうひゆうと吹ぬき、

おい木村さん信さん寄つてお出よ、お寄りといつたら寄つても宜いではないか、又素通りで二葉やへ行く氣だ

明治二十七年十二月に「大つごもり」を書き、

「たけくらべ」を完成した。

なぜならこの期間に「ゆく雲」に「ごりえ」「十三夜」「わかれ道」が書かれているからである。

「葉」の存在価値を文学史に見出すことができなかつたらう。

廻れは大門の見かへり柳いと長けれど、おはぐる漕に燈火ら

たけくらべ

ゆく雲 一葉 女史



一葉 夢 実

(上)

此書は一葉女史樋口一葉の君臣明治五年から東京に生れ、久く中島歌子

例は成勢よき黒い車、その門に音が止まった娘、おはなはかど前庭に出迎はれる物を、今宵は社より飛の

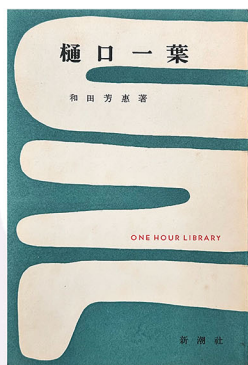
わかれ道

開館時間 9時～16時30分(入館は16時まで)
休館日 毎週月曜日(祝休日の場合は翌平日)
入館料 一般 300円(200円)、小中高生 100円(50円)
主催 公益財団法人 台東区芸術文化財団

台東区立一葉記念館
〒110-0012
東京都台東区竜泉3-18-4
TEL (03)3873-0004
東京メトロ日比谷線三ノ輪駅徒歩約10分



特別展 樋口一葉の奇跡の十四か月



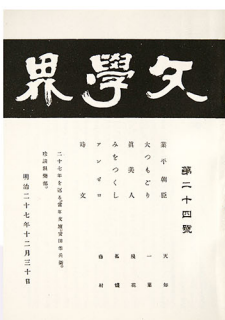
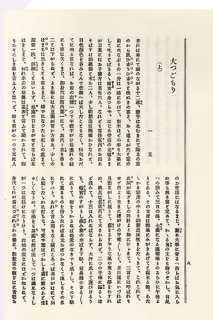
和田芳恵『樋口一葉』
(昭和29年7月)

書き下ろしの一葉研究書。B6判の「一時間文庫」として新潮社より発行された。6章立ての最終章として「奇蹟の期間」が載る

和田芳恵（1906～1977）
小説執筆のかたわら精力的に一葉研究を行い、日本芸術院賞を受賞した『一葉の日記』をはじめ多くの著作をのこす。当館設立時には佐藤春夫や久保田万太郎、塩田良平らとともに資料蒐集委員として尽力した。

あらためて紹介いたします。
本展では、一葉の人脈や文壇での評価、さらに出版社の戦略など「奇跡」を現出させた背景とともに、この充実期に書かれた作品をあらためて紹介いたします。

樋口一葉は、明治27年（1894）12月に「大つごもり」を発表して以降、29年1月までの短い期間に「ゆく雲」、「にぎりえ」、「十三夜」、「わかれ道」、「たけくらべ」など、後世に読み継がれ、また映画や舞台作品にもなった名作を矢継ぎ早に世に出しました。この時期を、後に作家で一葉研究家の和田芳恵は「奇跡の十四か月」と評しています。



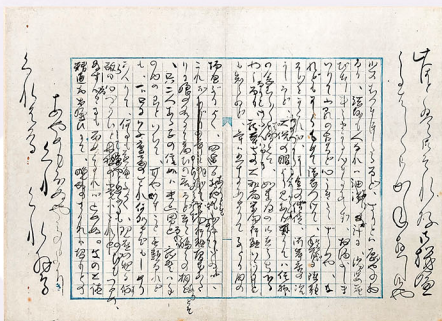
「大つごもり」が掲載された『文学界』第24号

(明治27年12月)
和田芳恵が「奇蹟の期間」のはじめに位置付けた「大つごもり」の初出掲載誌。表紙の題名が「大つごもり」(誤植)となっている



『文芸倶楽部』第12編臨時増刊「闇秀小説」

(明治28年12月)
博文館が女性作家の特集号として企画したもので、「十三夜」と「やみ夜」(「暗夜」改訂)が掲載された。口絵写真に作家の肖像が載り、一葉の顔が広く知られることとなった



一葉筆「たけくらべ」未定稿

(明治28年)
9章に描かれた部分の下書き。「たけくらべ」は、明治28年1月から『文学界』に断続的に連載され、翌29年1月に完結した。同年4月には『文芸倶楽部』第2巻第5編に一括掲載され、森鷗外らに絶賛される



木村荘八『にぎりえ』

(昭和20～30年代)
「にぎりえ」は、『文芸倶楽部』第9編(明治28年9月)に発表され、直後から賞賛を得た。この絵は、銘酒屋の店先でお力とお高が議論している場面を描いている。木村荘八は一葉を敬愛し、「たけくらべ」絵巻など、その小説をモチーフにした作品を数多くこした

関連イベント

10月19日(土) 映画「にぎりえ」上映会 「十三夜」「大つごもり」「にぎりえ」3編を原作とするオムニバス映画です
1953年 監督:今井正/出演:芥川比呂志 丹阿弥谷津子 久我美子 淡島千景 山村聰 杉村春子他
*観覧方法など詳細はホームページをご確認ください

令和6年度 一葉祭 11月22日(金)～24日(日)

樋口一葉の命日に開催している一葉祭。
一葉を偲ぶ記念講演と朗読をお楽しみいただけます。
詳しくはホームページ等をご覧ください。

入館無料

台東区立 一葉記念館

〒110-0012 東京都台東区竜泉3-18-4 Tel 03-3873-0004
*ご来館の前にホームページをご確認ください

アクセス

- 地下鉄:日比谷線「三ノ輪」駅 徒歩10分
 - 都バス(都08系統):日暮里駅(東口)⇄錦糸町駅(北口)(※いずれも「竜泉」下車) 徒歩3分
 - 北めぐりん:「一葉記念館入口」下車 徒歩2分
 - ぐるーりめぐりん:「一葉記念館」下車 徒歩5分
- *駐車場はありません。

